

根来山げんきの森倶楽部

令和6年10月作業日誌

活動日：令和6年10月20日(日) 9:30～15:00 天気：晴れ 倶楽部員：44人

10月後半になってようやく秋の兆しが見え始めました。今年は猛暑の影響で農作物は不作気味だった一方で、松茸は大豊作とのニュースがありました。げんきの森でもかわいいタマガタケがよきによきと頭を出して、短い秋を楽しませてくれています。

巣箱外し

昨年秋に設置した鳥の巣箱の回収を行いました。

てづくりの森の数個はイベント用に残し、30個ほどを回収。昨年より成績が良く、全体の1/3ほどが巣立っていました！昨年の結果を踏まえて設置場所を工夫したのが功を奏したようです。

管理棟近辺やプレーパークなど、比較的人の気配が多い場所が好成績。てづくりの森のバリアフリートレイルはイマイチでしたが、意外にも柵に取り付けたものに巣立ちの跡が見られました。一方で、お客様が巣箱に触ってしまったということもあり、来年の設置には更なる工夫が必要と感じました。

西展望方面は、3個の巣箱が跡形もなく消え去っているという前代未聞の事態が判明。管理棟にも届いておらず、どこに行ってしまったのか？謎は深まるばかりです。

巣の素材は、苔、動物の毛、植物由来らしき綿（蕨の毛？種の綿毛？）、化繊っぽい綿など様々。どの辺りから持ってきたのでしょうか？何にしても、これだけの巣材を運びこんでふかふかのベッドを作るには大変な苦勞があるはず、働き者の鳥たちに敬意を表したいと思います。（宮芝 真弓）





今年は秋がないと言われていたけど、散策すると秋の味覚があちこちに(^^)
このどでかいキノコは、宮芝さんのお子さんが持って帰ったそうで…お味が
気になります!! また元気で会えますように (笑)

炭焼き

穏やかで少し秋めいた日の中、今回は炭材詰めをしました。
炭材を運ぶ役、窯に詰める役、最後に窯の口を閉じる際に使う
土を作る役に分かれて男女8名で作業に当たりました。

炭に適した木は重く窯いっぱいにするのに1000kgもの材を
詰めます。何度も材置き場から窯までを往復し運びます。また
窯の中は天井が低いので中腰で木を詰める作業はかなり大変で
す。

土作りは、土の塊をトンカチで砕いて細かくし篩にかけます。
そこに水を入れて練るのですが、水を含んだ土は重くなり混ぜ
るのに力がいらいます。

あとは窯の口をレンガを積んで塞いだ時の隙間を練った土で
埋めたら完成です。

初めて作業に参加してくれた方と共に皆さんで協力してスム
ーズに進めることが出来ました。

今月末から4、5日かけて炭焼きをします。

次もいい炭が焼けますように。皆さんお疲れさまでした。。

(岡 尚美)



うるし谷整備



久しぶりに良いお天気に恵まれた一日になり、うるし谷
へは男ばかり6名で向かいました。

前々から気になっていた垂れ下がった枝と立ち枯れの
木の処理を行いました。

今日のメンバーは木の処理には経験があり、今日も慣れ
た手つきで2本の垂れ下がった枝と立ち枯れの3本をスム
ーズに処理しました。

お昼前にはしばらく使っていなかったチェーンソーの
点検、始動を行い、午後には倒してあった木をチェーンソ
ーを使って行いました。

今日、初めて参加してもらった人にはうるし谷の経緯に
ついて説明し、本日の作業は完了です。ご苦労さまでし
た。(山口 俣)

里山整備・歩道整備

心地よい秋晴れの中、自分を抜いて熟練ベテランばかりのメンバー7名で、プレーパークまでの歩道を整備する組とプレーパーク横のヤマモモを片付ける組の2班に分かれ活動開始。

ヤマモモ班はチェーンソーで小切る、林内作業車で引き上げるの繰り返し作業。途中の枝にひっかかりながらもさすがはベテラン。午前中いっぱい片付けを終えることができました。

歩道整備班は切り倒したヤマモモを歩道に使う予定でしたが、少し時間がかかりそうだったため、森の広場にある枕木をテイラーで運び、歩道の谷川に並べて杭打ちしました。プレーパークまでの歩道は想像以上に傷みが激しく、山側を削って地面を均したり、枕木を設置するために谷側を削ったりと時間をかけて整備しました。

午後からはヤマモモ班も合流しての歩道整備。切ったヤマモモを並べながらベテラン同士でああでもない、こうでもないといのいなの言いながらも通算20メートル近く整備できました。傷んだ歩道はまだまだあるのでしばらくは続きそうです。（東郷 太樹）

里山整備



歩道整備



みなさんご存知のタマゴタケは梅雨のさなかと9月の長雨の頃に出てくるキノコですが、近年、その発生量は減ってきていました。

ところが、今年はやっと涼しくなってきた10月後半になってあちこちからニョキニョキと出てきました。けっこう小ぶりのものが多かったようですが、あれだけたくさんのタマゴタケが出たのは久しぶりでした。

タマゴタケが減っていた理由の一つと考えられるのが、平成30年から令和4年まで続いたカシノナガキクイムシ被害です。タマゴタケはコナラやクヌギなどブナ科樹木から栄養をもらって成長する菌根菌なので、カシノナガキクイムシ被害で弱ったこの森のブナ科樹木から十分な栄養をもらえず発生量が減っていたのではないのでしょうか。

カシノナガキクイムシ被害が終息して2年。回復してきたコナラ林から栄養をもらえるようになってタマゴタケもたくさん出てくれたように見えます。

まだ、もらえる栄養は十分でなかったのか今年は小ぶりでしたが、来年は大ぶりの立派なタマゴタケが出るような森に回復してくれているといいですね。 岡田 和久

